

# 環境マネジメント

## 環境マネジメントシステムの構築

グループ会社およびサプライチェーン全体で、環境に配慮した事業活動を効果的に行うために、ISO14001などの環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)の構築を推進しています。

## 進捗状況

- マツダおよび国内・海外の製造系のグループ会社でISO14001の認証を取得(14社中14社取得)。
- 国内の自動車販売会社で環境マネジメントシステム「エコアクション21(EA21)」<sup>\*1</sup>の認証取得を推進。連結販売会社15社においては導入完了し、オーナー系販売会社に導入推進を拡大。2023年3月末時点までマツダ・マツダアンフィニ系販売会社25社、マツダオートザム系販売会社114社、マツダ中販(株)で取得。取得済の販売会社においては新規開業店舗への環境マネジメントシステム導入を継続活動中。
- 国内マツダグループの自動車部品販売会社2社に対して、マツダ独自の環境マネジメントシステムの導入完了。

## ISO14001の認証取得一覧

### 国内生産拠点・事業拠点

広島地区	本社工場	2000年6月
	三次事業所	
防府工場	西浦地区	1998年9月
	中関地区	
東京本社	マツダR&Dセンター横浜	1999年9月
	自動車試験場(美祢、剣淵、中札内)	
	大阪法人事務所	
		2016年9月

### 海外生産拠点

オートライアンス(タイランド)Co., Ltd. <sup>*1</sup>	2000年5月
長安マツダ汽車有限公司 <sup>*1</sup>	2008年12月
長安マツダエンジン有限公司 <sup>*1</sup>	2009年2月
マツダデメヒコピークルオペレーション <sup>*2</sup>	2014年12月
マツダパワートレインマニュファクチャリング(タイランド)Co., Ltd. <sup>*2</sup>	2016年11月

\*1 持分法適用会社。

\*2 連結子会社。

### 国内連結子会社(販売系を除く)4社

(株)マツダE&T <sup>*3</sup>	2000年6月
マツダエース(株) <sup>*3</sup>	2000年6月
マツダロジスティクス(株) <sup>*3</sup>	2000年6月
倉敷化工(株)	2001年12月

\*3 マツダの認証範囲として一部もしくは全部の認証を取得。

### 国内持分法適用会社4社

トヨーエイテック(株) <sup>*4</sup>	2000年6月
(株)日本クライメイトシステムズ	2000年5月
ヨシワ工業(株)	2002年4月
MCMエネルギーサービス(株) <sup>*5</sup>	2008年6月

\*4 マツダの認証範囲の一部として認証取得。単独事業所では個別に2016年3月に認証を取得していたが、2017年4月に個社単独の認証に移行、これによりマツダの認証範囲から外れた。

\*5 マツダの認証範囲に含まれていたが、2013年3月に独自に認証取得。

## 環境方針の策定

マツダ(株)の認証範囲には環境取り組み推進のため、以下の環境方針を定めています。

### マツダ 環境方針

#### 基本方針

社会や地域と共存する事業活動を通じて、カーボンニュートラル・循環型社会の実現を目指します。

#### 行動指針

- (1) 資源の循環利用、エネルギー使用量削減と再生可能エネルギー導入、生物多様性保全に努めます。
- (2) ライフサイクルを考慮した商品・サービスの提供により、環境配慮商品・サービスの普及を拡大します。
- (3) 環境法規制の順守にとどまらず、事業活動による地域・社会への環境影響を考慮し、未来にわたり社会の快適性確保に努めます。
- (4) 一人ひとりの環境意識を高め、企業活動全体で持続可能な社会の実現に貢献するとともに、適切な情報開示と相互コミュニケーションを大切にします。

## 「グリーン調達」の推進

サプライチェーン全体で環境保全に配慮した事業活動を継続的に推進することを目指して、「マツダグリーン調達ガイドライン」を制定し活動しています。このガイドラインでは、世界中のお取引先さまを対象に、製品の開発から製造、納入に至る全ての段階での環境負荷低減活動を要請し、環境に配慮した取り組みを行っているお取引先さまから優先的に購入を進めていくことを明記しています。

また、マツダは部品や資材、生産用設備・要具のお取引先さまに、ISO14001認証の取得および登録維持や、企業活動で排出する温室効果ガス量の削減を要請するとともに、情報提供などによってお取引先さまと協働した環境活動を推進します。現在、マツダ車の開発・生産に関わる主要なお取引先さまは全社ISO14001認証を取得しています。

## サプライヤー(購買お取引先さま)の環境マネジメントシステム構築対応状況

- 新規お取引先さまを含め、継続的に取引がある国内外の主要お取引先さま約500社の登録維持100%を継続しています(2023年3月末時点)。
- マツダグリーン調達ガイドラインの中で、購買一次お取引先さまを通じて、二次以降のお取引先さまの環境マネジメントシステム構築を要請しています。

## サプライヤー(購買お取引先さま)とのカーボンニュートラルに向けた協働活動

- マツダグリーン調達ガイドラインの中で、お取引先さまにCO<sub>2</sub>排出量削減のロードマップの策定と実施をお願いしています。その中で、地場を中心とした主要なお取引先さまからはCO<sub>2</sub>排出量削減のロードマップを提出いただき、カーボンニュートラルに向けた協働活動を行っています。

## 環境監査の実施状況

ISO14001やEA21などの環境マネジメントシステムが有効に機能していることを確認するために、マツダを含む国内および海外のグループ内の認証取得会社においては、内部監査と外部機関による審査をそれぞれ年1回実施しています。

内部監査や外部審査の結果は経営層へ報告し、迅速かつ適切な是正を行っています。

### ISO14001外部審査の指摘件数

マツダ(株)

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
重大な不適合	0	0	0	0	0
軽微な不適合	0	0	0	0	1
観察事項	6	6	5	5	8

## 感覚公害の防止

感覚公害は、騒音・振動・臭気などにより人体に感覚的・心理的影響を与えるものです。これらの公害は法規制値をクリアしても周辺の住民に不快感を与えることがあります。そこでマツダでは、発生源の改善や防音・脱臭などの対策の強化を計画的に進めています。

## 環境リスクマネジメントの具体的な取り組み

### 環境モニタリング

各工場・事業所で、環境汚染や事故などを想定した訓練を行ったり、大気汚染、水質汚濁などの環境モニタリングを定期的に実施しています。

### 法令違反および苦情

2022年度は、海外グループ会社において環境関連の法令違反が1件あり、国内グループ会社においては苦情を1件いただきました。誠実かつ適切に対応し、再発防止策についても実施しています。

## 環境モニタリング

環境モニタリング項目	モニタリング対象	モニタリング項目	モニタリング数
大気	ボイラ、溶解炉、加熱炉、乾燥炉 他	硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、揮発性有機化合物、塩化水素の5項目	約320／年
水質	廃水処理水	カドミウム、シアノ、有機燐、鉛、六価クロムなどの43項目	約1,600／年
騒音・振動	敷地境界線	騒音レベル、振動レベルの2項目	36／年
臭気	敷地境界線 他	臭気指数の1項目	15／年
廃棄物	鉱さい、汚泥、金属くず 他	カドミウム、シアノ、有機燐、鉛、六価クロムなどの25項目	約100／年

## 法令違反および苦情

(2022年度)

マツダ(株)	グループ会社	
	件数	内容／対策
法令違反	0	- 1 水質／発生源対策実施
苦情	0	- 1 流出(水)／流出防止対策実施

\*対象:マツダおよびグループ会社

## 環境教育／環境教育体制

環境マネジメントシステム(EMS)の一環として、地球環境問題と国内外の動向、マツダの環境取り組み、職場での環境保全活動についての環境教育を、従業員を対象に年1回、EMSのリーダーを対象に年2回実施するとともに、環境関連公的資格などの取得を従業員に推奨しています。これらの資格取得については、費用の補助をマツダ・フレックスベネフィット<sup>※1</sup>で受けられるなど、支援を行っています。

また、環境意識の向上を目的に、従業員が日頃から行っているゼロカーボンアクションに関するアンケートを実施しました。ゼロカーボンアクションについて解説することで、従業員に最新の情報を提供しました。

※1 選択型の福利厚生制度。あらかじめ定められたポイントの範囲内で社員個人が選んだ福利厚生メニューの補助が受けられる仕組み。

資格取得の推進	
■エネルギー管理士	■特別管理産業廃棄物管理責任者
■公害防止主任管理者	■環境社会検定試験(= eco検定)
■大気・水質公害防止管理者(第1～第4種)	■EMS審査員
■騒音・振動関係公害防止管理者	■内部環境監査員
■粉じん関係公害防止管理者(特定、一般)	■環境計量士
■ダイオキシン類関係公害防止管理者	■建築物環境衛生管理技術者



## 日常の環境活動

日々、従業員一人ひとりが担当する業務にて、環境に配慮した取り組みを行っています。

## 紙使用量の削減

書類や財務帳票類の電子化、会議などでのプロジェクター、モニター設置利用を進め、オフィスでの大幅な紙使用量の削減を推進しています。また、古紙（シュレッダーダスト）の部品輸送時の緩衝材としての活用や、廃紙の分別徹底など、リサイクルに努めています。

## エネルギー使用量の削減

電力消費の少ない事務機器の購入、照明やパソコンなどの不要時電源オフの徹底など、エネルギー使用量の削減に継続的に取

り組んでいます。昼休憩時には、オフィスや工場の照明を半分消灯する運動を継続、推進しています。また、夏期にはクールビズを実施し、室内温度設定を原則28°Cとしています。さらに、冬期の特に電力消費量が増加する季節には、ウォームビズを実施し、室内温度設定を原則20°Cとしています。

## 「エコ・ウォーク通勤」制度

環境意識の啓発と健康増進のため、2km以上の徒歩通勤者に通勤手当(1,500円／月)を支給しています。

## ライトダウン活動

### ■マツダライトダウンキャンペーン

環境意識の醸成のため、マツダおよび国内グループ会社で、看板照明や屋内照明のライトダウンを実施しました。

2022年6月21日(夏至)と7月7日(七夕)の2日間、20時から22時までの2時間の消灯で、電力量約9 kWh、CO<sub>2</sub>排出量約4トンの削減となりました。

(参加数) マツダ:14拠点

国内グループ会社:270社、963拠点

この取り組みは、2011年にマツダの6拠点でのライトダウンから始まり、12回目となる2022年は全国のマツダグループにおいて過去最大規模での参加活動となりました。

### ■WWF主催 アースアワー2023

マツダおよび国内グループ会社でWWF主催の、世界最大の地球温暖化防止キャンペーンであるアースアワー2023に賛同・参加しました。

2023年3月25日の20時半から21時半までの1時間、看板照明や屋内照明のライトダウンを実施しました。

(参加数) マツダ:12拠点

国内グループ会社:127社、701拠点

また、広島平和記念公園で開催されたアースアワー啓発イベントに協力企業として参加し、実施の様子をオンライン配信しました。

▶ ライトダウン活動の詳細は、サステナビリティ「地球：関連情報」参照

## 環境事故の対応訓練および防止キャンペーン

### ■海上汚染防止訓練

マツダは、工場立地場所が海に面しているため、内航船などの油漏れなどの環境リスクが高い状況にあります。海上への油漏れに対して、オイルフェンスの展張および、海上に浮遊した油の拡散防止や回収作業を行うなど、実際を想定した訓練を実施し有効性確認を行っています。コロナ禍により中断していましたが、2023年度より訓練を再開しました。

### ■油漏れ撲滅および交通安全啓発キャンペーン

マツダは、マツダロジスティクス(株)、トラック輸送会社と共に、納品車両の油漏れ未然防止および交通安全の啓発活動を年2回行っています。この活動では、広島および防府の2工場への納品車両の運転手に啓発資料を配布し、環境・安全意識の向上と、事故発生時に迅速かつ的確に対応できる体制の構築を進めています。また、油漏れ未然防止活動の一環として、納品車両個々の整備状況や過去に発生した環境不具合情報をデータベースに集約して見える化を行い、輸送会社に対してタイムリーに情報や注意喚起のメッセージを発信するカルテ化システムを構築し、2021年3月より運用を開始しています。当初、ミルクランシステム<sup>※1</sup>で利用している車両の約38%が導入していましたが、2022年度末時点では約65%まで導入が拡大しています。今後も油漏れ未然防止を確実なものとするため、導入業者の拡大に努めています。



油漏れ撲滅および  
交通安全啓発キャンペーン

※1 1台のトラックで、複数のお取引先さまを巡回して集荷する方法。牧場を循環して牛乳を集荷するさまになぞらえたもの。